

2021年度 事業報告

施設名 玉堤つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 13人 利用者数 13人

(1) 障害支援区分

区分6	11人	区分5	2人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	13人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3～7級	なし	
愛 の 手 帳	1度	1人				1人
	2度	4人				4人
	3～4度					0人
	なし	7人	1人			8人
計		12人	1人	0人	0人	13人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	2人
20代	1人	50代	4人
30代	6人	60代以上	0人
計		13人	

男性	7人
女性	6人
計	13人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

- ・ 開所日数 243 日、延べ利用者 2832 人、一日平均 11.7 人となった。利用率平均は 89.6%。
- ・ 利用者にはコロナウィルス感染者は発生しなかったものの、発熱等の体調不良や関係者の感染者発生による通所自粛もあり、昨年同様、利用率は 8 割台（前年度比 +5.1%）に留まった。
- ・ コロナ禍での感染対策や自粛生活も 2 年目を迎え、活動は見直しを図りつつ、周年記念行事は「東北沢つどいの家」とオンラインを活用して合同で実施した。

*行事等

- 4月 介助講習会(5・28日)
- 5月 誕生会(25日)
- 6月 自衛消防訓練(4日)、室内レク(30日)
- 7月 暑中お見舞い(20日)、誕生会(28日)
- 8月 誕生会(24日)、防災の勉強会(31日)
- 9月 なし
- 10月 誕生会(26日)
- 11月 駒大ボラ交流会(12日)、誕生会(30日)
- 12月 誕生会(15日)、全体レク(22日)
- 1月 誕生日会(25日)、室内レク(26日)
- 2月 誕生日会(15日)、両つどい周年記念式典(22日)
- 3月 誕生日会(22日)、全体レク(29日)

*ワクチン巡回接種(7・8・3月)

*1日の基本プログラム

- 8:30 職員会議
- 9:30 利用者来所
- 10:15 朝の会、日中活動
(途中水分補給)
- 11:00 トイレ・食事準備(職員昼食)
- 11:30 女性昼食・歯磨き・トイレ
- 12:10 男性昼食・歯磨き・トイレ
- 13:00 昼休み
- 14:00 自由時間
- 14:30 帰りの会
- 15:30 利用者退所
- 15:45 職員会議、館内清掃・消毒

* 日中活動	
・ 染め	布に動物や食べ物等の型抜きで糊を置いてデザインし、染料で染め、巾着等の製品を作成した。周年記念式典のため、記念品のオリジナル巾着をデザイン考案から完成まで数か月かけて制作した。
・ マーブリング	水を張った容器に染料を落とし、その上に用紙を浮かせ、幾何学的な模様を用紙に写す。ポチ袋等として商品化。記念品のオリジナル巾着制作のため、マーブリング活動をやや控えて、染め活動の回数を多めに調整した。
・ 体操	マットを敷いてストレッチやマッサージ。座位での上肢運動の実施等。基本月1回理学療法士にみていただき、側弯の強い方のリラクセス姿勢や動かし方のアドバイスを受けた。感染状況をみて、周辺の散歩も少し実施できた。
・ COM	カードやiPad等の様々なツールを使用し、コミュニケーションの方法や技術の向上を図る。マスクを着用しながらのやりとりも定着していた。
・ 美化	所内の整理、備品の在庫チェックを中心に実施した。また、新型コロナウイルスに関する知識や感染対策、ワクチン接種について分かりやすく説明した。
・ 広報	広報誌の編集と作成、発送作業を実施。担当利用者を中心に企画会議も実施。読者が楽しめるような内容にしようと熱心に取り組んでいた。
・ 映画会	誕生月の利用者のリクエストによる、映画・お笑い・アニメ等の映像鑑賞。昨年同様、映画館に行きにくい状況だったため、大変好評だった。
・ カラオケ	PC・TVを使用して、利用者のリクエストに沿った曲や映像を流し、飛沫防止のため歌うことはせず、手拍子や拍手、楽器を鳴らして楽しんだ。
・ ミーティング	活動内容の検討等、様々な意見を交換し合う。周年記念式典に向け、記念品や式典内容等、利用者さんからのアイデアを多く挙げてもらった。
・ フリー	各自のやりたいこと（絵画・TV視聴等）を可能な範囲で実施。中には将来の生活について選択肢を挙げたり、必要なことを具体的に考えたり、職員と話し合う場面も多く見られた。
・ セミナー	利用者からのリクエストを基に各回テーマを決め、みんなで知識を深めた。「デリバリー」「47都道府県」「アニメ」等、様々なテーマを取り上げた。
・ アート	玉川支援ねっとの交流企画として、他施設に出張展示してもらうためキャラクターに扮した「つどいのムーミン谷」を共同制作した。

(2) 地域交流

<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で規模を縮小して「YK会のクリスマス会」、「玉川福祉フェスティバル」が実施されたが、職員のみ参加となった。「玉川支援ねっと」では昨年からのオンライン会議を継続しつつ、アート作品の出張展示を行い、他施設とのつながりを持つことができた。
--

(3) 家族、関係機関との連携等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年同様、電話や文書等で普段以上に丁寧に意向や様子等を確認するように努めた。 ・ 区の障害区分認定調査は感染対策を取りながら、少人数で実施した。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏のボランティア体験(夏ボラ)、介護等体験生(教職員養成課程)、田園調布学園、セントメリー学園(年2回)等、全て中止となったが、駒沢大学ボランティアサークルの学生とはオンラインを活用して交流を図った。 ・ 光明学園の実習関連は、保護者の見学を受け入れたが、生徒の実習までには至らなかった。

(5) 危機管理

- ・ 非正規職員 1 名の新型コロナウイルス罹患が判明した (7 月)。しかし、感染対策を徹底していたこともあり、その他の感染者や濃厚接触者等の発生はなかった。また、連休中に館内消毒等も終了したため閉所もなく、通常通り事業の継続ができた。
- ・ 昨年同様、職員は出勤前の検温と体調チェック、外食・外出の自粛、時差出勤、会議・研修のオンライン参加等を継続。世田谷区の社会的検査 (PCR 検査) が終了となってしまったため、PCR 検査キットを備蓄し、区から配給のあった抗原検査キットも活用した。
- ・ 建物の電気設備定期点検 (10 月) のため停電となり、点検終了後に通電してからもトイレのリフトが使用できなくなってしまった。リフト業者に来てもらい機械の交換が必要となり、再稼働までに時間を要してしまった。

(6) 職員研修の実施

- ・ 法人職員全体では、オンラインを活用して「ご縁の会」を実施した。
- ・ 法人の虐待防止マニュアル完成後、「虐待防止研修」を事業所内にて実施した。
- ・ その他、世田谷区福祉人材センターのオンライン研修を多数受講した。

(7) その他 (苦情・事故等)

- ・ ヒヤリハット…35 件 (欠席や早退の連絡漏れ、ベルト締め忘れ、食器落下等)
- ・ 苦情…0 件
- ・ 事故…1 件 (7 月：非正規職員 1 名の新型コロナウイルス罹患)

3 重点課題と取り組み・成果

2021 年度は以下を重点課題として挙げ、取り組んだ。

① 利用者の健康管理・維持

→ 感染症に限らず、日頃から利用者の様子を注意深く観察するよう心がけ、体調不良等の小さな変化にも柔軟に対応できた。新型コロナウイルスのワクチン巡回接種を行うなど、各ご家庭へのサポートを行った。また、昨年同様、区の健診センターの使用中止に伴い、集団検診が実施できなかった。新たな策として地域医療の往診医に相談したが、検診実施には至らなかったため、次年度の課題とする。

② フェイスシート等の書類の整備

→ 新型コロナウイルスのワクチン接種のため、既往歴や服薬状況等を再確認した。一部の書類の情報を更新する良い機会となった。また、区の虐待通報による調査や第三者評価を受けたことで、様々な書類を改めて整備することができた。

③ 30 周年記念式典に向けての準備

→ 「東北沢つどいの家」40 周年と併せ、合同で記念式典の準備を数か月に渡って行った。当日一同に会することはできなかったが、オンラインにて規模を縮小して実施した。利用者が記念品 (オリジナル巾着) の制作、式典の企画や装飾等、役割を持って関わることができ、一つの節目を迎えられることができた。